

令和6年度 学校経営方針

江戸川区立第三葛西小学校

校長 吉野 麻哉子

1 学校経営の基本方針

教育目標の実現のため、次の3点を基本方針として、教育課程の円滑な実施と教育課題の解決に向けて学校経営にあたる。

- ・子どもを中心に据えた判断基準の下で学校経営にあたる。
- ・協力・協働できる能動的な教職員組織をつくる。
- ・保護者・地域の教育力を生かし、地域とともに児童を育む。

2 教育目標

知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を目指し、「智・仁・勇」を本校の教育目標とする。

- <智> ちえ 深く考え進んで実行する子（今年度重点目標）
- <仁> おもいやり 思いやりのある子
- <勇> ゆうき 明るくたくましい子

3 目指す学校像

夢や希望を育てる学び舎としての学校

- ・子どもにとって通うことが楽しい学校
- ・子ども自身の夢や希望、子どもにかける家庭や地域の夢や希望を育てる学校

4 目指す児童像

- ・自己肯定感や自尊感情をもち、夢や希望をもって未来に向けて歩むことができる子ども
- ・学校や社会のルールを守り、地域を愛し、向上心をもって生活する子ども

5 目指す教師像

- ・教育公務員としての自覚をもち、児童・保護者・地域から信頼される教師
- ・「学習指導力」「生活・進路指導力」「外部との連携・折衝力」「学校運営・組織貢献力」の向上のため、日々研鑽に努める教師
- ・「厳しく教え 温かく育てる」「信じて接し 愛して育てる」を教育信条とし、子ども一人一人に寄り添う教師

6 学校経営の重点

(1) 学級（専科）・学年経営の充実

- ・人権尊重の精神の下、教師と子どもが信頼と尊敬の人間関係で結ばれ、子ども同士が協力的で互いを認め合う風土の中で関わり合うことができはじめて「仁 思いやりのある子」を育てる基盤となる。
- ・よりよい学級（専科）・学年経営のために、多くの教師の目で子どもの実態を捉えて成長の見守りを行う。そのために、毎年の全学年学級編成、高学年教科担任制、専科教員の副担任制を実施する。
- ・いじめについては、どの学級・学年でも起こり得るものとの認識をもち、細心の注意を払って未然防止・早期発見に努める。事案が起こった場合は、早急にいじめ対策委員会を招集し、全力で組織的な解決に努める。
- ・不登校・虐待についても注意を怠ることなく、関係諸機関との連携を図り、対応に努める。

(2) 授業の充実

- ・教師の最も重要な仕事は授業である。子ども側に立った「楽しい授業・わかる授業」を目指し、常に教材研究・質の改善に努め、自らの授業力を高める。
- ・学習指導要領の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性」の3つの柱に基づき、全ての教科において「主体的・対話的で深い学び」への授業改善をすすめる。
- ・教員同士で授業を公開し合い、学び合い、質の高い教育を組織的に提供できる学校を目指す。
- ・学習規律を明確にし、共通理解する。
- ・校内研究は国語科の表現で行う。
- ・朝学習の時間も利用し、計画的に読書科をすすめる。
- ・効果が見込まれる教科や単元において、必要に応じてタブレットを取り入れた授業を行う。
- ・学力向上のために、外部委託の放課後補習を有効活用する。

(3) 健康で安全な学校生活

- ・健康で安全な環境の中で、子どもが安心して学校生活を送るために、施設・設備の安全点検、教育環境の整備により、明るく静かで整った環境をつくる。
- ・安全教育・防災教育・健康指導の充実を図り、事件・事故の防止や災害への万全な対応を図る。
- ・管理下における負傷事故等が発生した場合は、初期対応に遺漏のないよう努め、危機管理体制の下に、全教職員が組織的に行動し、全力で解決にあたる。

(4) 特別活動の充実

- ・ 集団活動を経験させることによって、調和のとれた豊かな人間性と自己を生かす能力を養い、豊かな人間関係の育成に努める。
- ・ 責任感と自主的・自発的な行動力を育み、互いの良さや成長を感じることができるよう指導を工夫する。特に、話し合い活動を充実させ、自治能力の育成を図る。
- ・ きょうだい学級を基盤とし、異学年交流を意図的・計画的に実施する。関わり合いの中で自己肯定感や自尊感情、上級生を尊敬する感謝の気持ち、下級生を慈しむ思いやりの気持ちを育ませる。

(5) 特別支援教育の推進

- ・ 特別な支援を必要とする子どもたちに寄り添った特別支援教育の充実を図る。
- ・ かぜのこ学級との交流・共同学習を推進し、副籍交流を含めたインクルーシブ教育の充実に努める。
- ・ 特別支援コーディネーターを中心として、特別支援校内委員会の充実を図る。また、子どもの実態を全教職員で把握するとともに、特別支援教室巡回指導教員や特別支援教室専門員、SSW、SC、巡回心理士と連携し、適切な指導を行っていく。

(6) 保護者・地域との連携

- ・ 本校は創立92年の歴史と伝統のある学校である。地域が協働して子どもを見守ってくれている良さを大切に、地域を愛する児童を育成していく。
- ・ 開かれた学校づくりに向け、学校公開・保護者会・ホームページ・各種たより等により教育活動について適切に説明し、保護者・地域との連携に努める。
- ・ 家庭と連携し、家庭学習習慣の確立と家庭学習の推進を図る。

(7) 校務分掌と組織の活性化

- ・ 教職員一人一人が自己の職層における責任を深く理解する。
- ・ 月に一度の校内OJTを計画的に推進し、人材育成に全校体制で取り組む。
- ・ 行事の提案方法について、全員で共通理解しすすめる。
- ・ 働き方改革を意識し、行事の精選・実施方法の改善、会議の精選等を行う。また、C4thで提案を行うことによって会議の短縮化を図り、子どもと向き合う時間・教材研究の時間が確保できるようにする。
- ・ 全てのことに、前例踏襲に陥らずに改善に向けて意識を高くもつ。

(8) 学校予算の適正な編成・執行

- ・限られた予算の中で、常にコスト意識をもち、節約と無駄の排除を行う。
- ・教育活動の実態に即した予算編成を行い、教育的効果の検証の下、迅速かつ適正に執行する。

(9) 教育公務員としての自覚と危機管理意識

- ・子ども・保護者・地域・区民・都民の信頼を裏切るようなサービス事故を起こさないように法令順守に努める。
- ・サービス防止研修を計画的に実施し、教職員の危機管理意識の向上に努める。

(10) その他

- ・楽しい中にも規律と節度のある教職員組織をつくる。時間を意識し、ベテランと若手とが互いを思いやり、尊重し合って職務に当たることができるような職員室の雰囲気づくりに努める。
- ・報告・連絡・相談を忘れないよう、日ごろからコミュニケーションを大切にする。